

News Release

2026 年 6月23日

株式会社ツミカサネ
株式会社 Tree to Green
株式会社ソルトターミナル
株式会社竹中工務店
株式会社丹青社
コクヨ株式会社
滝澤ベニヤ株式会社

信州の小径木を高付加価値の合板に再生する共創プロジェクト ブランド名は「NOITA（ノイタ）」に決定

Tree to Green（代表取締役：青野裕介）、ソルトターミナル（代表取締役：友保悟郎）、竹中工務店（社長：丁野成人）、丹青社（代表取締役社長：小林統）、コクヨ（社長：黒田英邦）、滝澤ベニヤ（代表取締役：瀧澤貴弘）の6社が出資する株式会社ツミカサネ（代表：青野裕介）は、信州・木曽エリアの小径木等を高付加価値の合板に再生するプロジェクトのブランド名を「（仮称）シンゴーハン」から改め、「NOITA（ノイタ）」に決定しました。

新ブランド名「NOITA」には、ありのままの森を板にした野「の板」、木曽「の板」、小径木「の板」などの意が込められており、地域に、人に、寄り添うプロジェクト・製品であることを表現しました。



【NOITAウェブサイト】 <https://noitaplywood.com/>

【NOITA製品の特長・4つの「重ねる」】



① 表情を、重ねる。 | 表面・断面の美しさ

仕上げ材として使えるほどなめらかな表面が標準です。節は木が森で健康に育った時間の痕。節のない上品さも、節のある確かさも、どちらも合板の魅力的な表情なのです。



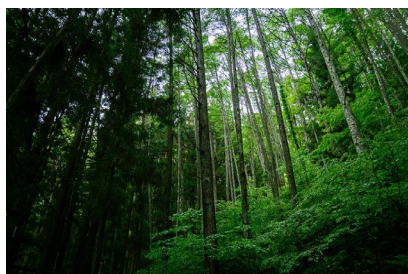
② 対話を、重ねる。 | カスタムオーダー対応

寸法・厚み・樹種・加工まで、使い手の相談に応じます。広葉樹や、思い入れのある樹の持ち込み加工も可能です。つくり手と使い手が対話を重ねるプロセスそのものです。



③ 選択を、重ねる。 | 人・地球にやさしい合板

NOITAは、接着剤を「選べる」合板です。ホルムアルデヒドの揮発がないノンホルマリン接着剤と、原料の一部に自然由来素材を使った接着剤の2系統を用意する予定です。



④ 時間を、重ねる。 | 森のストーリー

これまで建材になりにくかった小径木の出番をつくり、森林サイクルをまわす合板がつくりたくて、木曾に拠点を構えました。NOITAには一枚一枚、森で過ごしてきた時間があります。その時間が、NOITAの付加価値です。

NOITAは「美しさを重ねる合板」です。見えないところに使われることが多かった針葉樹の合板を、建築の仕上げ材や家具・内装等の「見える部分にも積極的に使用できる」よう、丁寧に加工することで付加価値を高めました。人にも地球にもやさしい製品となっており、小規模工場ならではのフットワークの軽さを生かして、従来の大規模工場では難しかったカスタムオーダーにも対応します。

NOITAの原材料として、これまで有効活用先が限られていた小径木を積極的に活用します。小径木に価値が生まれれば、森の伐採時に生じる太い木も細い木も、ともに価値を付けて生かすことが可能になります。その結果、森林の適正な管理が進み、森全体が健全に循環します。

つまり、NOITAを製造し、商品を流通させることが、そのまま森の保全と次世代への継承につながります。

本プロジェクトは木曾地域の森林資源を活用した循環型経済の構築を目指す「木曾森林グランドサイクル構想」の中核事業として、2026年10月より長野県塩尻市および木曾町の二拠点で本格稼働を開始する予定です。

【プロジェクト概要】

プロジェクト名：「NOITA（ノイタ）」

製造会社：株式会社ツミカサネ

ツミカサネ

- 本社：長野県木曾郡木曾町新開6943番地1
- 代表：青野裕介
- 設立年月：2024年9月
- 事業内容：単板および合板の製造・販売
- 株主構成：Tree to Green、ソルトターミナル、竹中工務店、丹青社、コクヨ、滝澤ベニヤ
- 工場所在地：第一工場・塩尻市奈良井1037-3 / 第二工場・木曾郡木曾町新開1942

木曾森林グランドサイクル構想：竹中工務店が提唱する、森林資源と地域経済の持続可能な好循環を目指す取り組み。小径木や未利用材を高付加価値の建材へと転換する流れを構築し、森林の健全な再生、地域経済の活性化、地域材の活用を一体で推進します。NOITAは、その中核を担う合板製造・内装材加工拠点として位置づけられています。

本件に関するお問い合わせは下記にお願いいたします。

株式会社 ツミカサネ | Email: info@tsumikasane.com